

製品名: EphB1/2 (リン酸化Tyr594/604) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04616**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	110kDa

抗原情報

遺伝子名	EPHB1/EPHB2
別名	EPHB1; ELK; EPHT2; HEK6; NET; Ephrin type-B receptor 1; ELK; EPH tyrosine kinase 2; EPH-like kinase 6; EK6; hEK6; Neuronally-expressed EPH-related tyrosine kinase; NET; Tyrosine-protein kinase receptor EPH-2; EPHB2; DRT; EPHT3; EPTH3; ERK;
遺伝子 ID	2047/1969
SwissProt ID	P54762/P29323
免疫原	抗血清は、ヒト EPHB1/2 の Tyr594/604 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 561-610

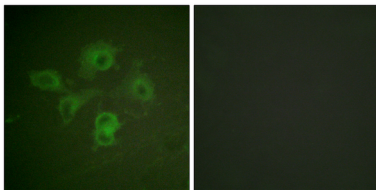
背景

エフリン受容体とそのリガンドであるエフリンは、特に神経系において、多くの発達過程を媒介します。エフリンは、その構造と配列関係に基づき、グリコシルホスファチジルイノシトール結合によって膜に固定されるエフリン A (EFNA) クラスと、膜貫通タンパク質であるエフリン B (EFNB) クラスに分類されます。Eph ファミリーの受容体は、細胞外ドメイン配列の類似性と、エフリン A およびエフリン B リガンドへの結合親和性に基づいて 2 つのグループに分けられます。エフリン受容体は、受容体チロシンキナーゼ (RTK) ファミリーの最大のサブグループを構成しています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、エフリン B ファミリーメンバーの受容体です。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: $ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシリン酸$ 。機能: エフリン B ファミリーのメンバーの受容体。エフリン B1、-B2、-B3 に結合します。神経系の細胞間相互作用に関与している可能性があります。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Tyr タンパク質キナーゼファミリー。エフリン受容体サブファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。類似性: 1 つの SAM (無菌アルファモチーフ) ドメインを含みます。類似性: 2 つのフィブロネクチン III 型ドメインを含みます。サブユニット: リガンド活性化型は、それぞれの SH2 ドメインを介して GRB2、GRB10、NCK と相互作用します。GRB10 の SH2 ドメインは Tyr-928 を介して EPHB1 に結合し、GRB2 は触媒ドメイン内の残基に結合する。EPHB6 と相互作用する。NCK の SH2 ドメインは Tyr-594 を介して EPHB1 に結合する。PRKCABP と相互作用する。組織特異性: 脳で優先的に発現する。

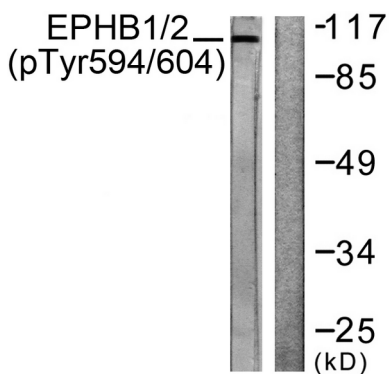
研究分野

軸索ガイダンス;

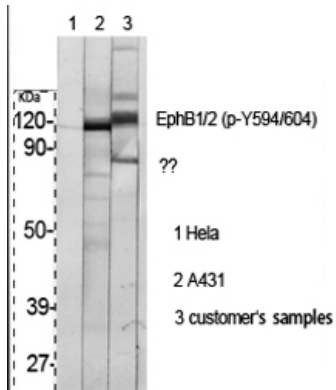
画像データ



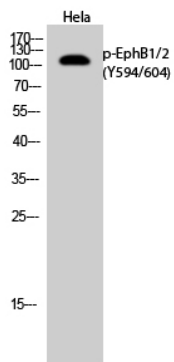
EPHB1/2 (リン酸化 Tyr594/604) 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした画像です。



EPHB1/2 (リン酸化 Tyr594/604) 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 EphB1/2 (Y594/604) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



ホスホ EphB1/2 (Y594/604) ポリクローナル抗体を用いた HeLa 細胞のウェスタンブロット解析